



葛飾北斎「鶯 垂桜」より構成

📅2024年度第33回開講式—4月4日（木）開催！！

第33回開講式が、4月4日、新規受講生を含む多数の受講生（会場78名、オンライン56名）の参加を得て開催されました。また、来賓として加藤順一川崎市副市長、小田嶋満教育長をはじめ多くの方々にご出席いただきました。

第1部開講式では、まず馬場康雄学長から、今年度は川崎市が市制100周年を迎える年で



あり、第2次護憲運動、護憲三派内閣の成立と日本全体が大きくデモクラシーの方向に動いているときに川崎市制が始まったこと、さらにロシア、アメリカ、イギリス、中国の例をあげ1924年は世界でも大きな転換点になった年であること、最後に、日本の政治は100年前の立憲主義の「憲政のあるべき姿を実現する」との発想を取り戻した方が良いと話され、アカデミーは、あるべき姿をめざすことにアクセスできるような方策を人々と一緒に涵養していくのが趣旨であると述べられました。



太田猛彦理事長からは、これだけの規模のアカデミーの運営は受講生の皆さんが運営に参加することでできていること、さらに、アカデミーはいろいろな問題を取り上げて聞ける身近な機会であり、それが川崎市にあることが良いことだと思つたお話がありました。最後に、皆さんがアカデミーで学ぶとともに盛り上げていただいて、30周年からまた一歩前進したいと話されました。



藤嶋昭顧問理事は、アカデミーは日本一の市民大学だと常々思っていること、市民大学に相当する市民講座について藤嶋先生が尊敬する科学者マイケル・ファラデーが一番注力したのが市民講座（毎週金曜日夜8時から1時間、王立研究所の講堂で実施）であったことを、ファラデーの功績と生涯を先生の著書「ファラデーの作った世界」とともに紹介しつつお話がありました。



加藤順一川崎市副市長は来賓の挨拶として、アカデミーが30年以上も市民の皆様へ生涯学習の場を提供していること、素晴らしいのは受講者が講座の運営を担っていることは全国的にも希な事例であり川崎市にとっても大変誇りに思っていると述べられました。川崎市は今年市制100周年を迎え、生涯学習の分野でも先人の多様で多彩な活動が川崎らしい文化を育んできた、次の100年に向け誰もが学習できる場を市民の皆様と一緒に作っていききたい、と述べられました。

記念講演・関幸彦先生

（元日本大学教授）

「王朝貴族と貴族道— 道長と紫式部の世界」



天皇の^{まつりごと}政を請負って代行する摂関政治。徴税と中央政府への納税も、荘園内の責任者（^{みょうしゅ}名主・^{たど}田堵）が請負い、中央・地方で起きる反乱の鎮圧は^{つれもの}兵（武士）が請負う。このように、政治・経済・軍事など、国家の重要な分野で「請負システム」が整備されたのが、藤原道長や紫式部が生きた王朝国家の時代でした。

また、道長が女郎花を手折って、紫式部に与えたという逸話や、『尊卑分脈（そんぴぶんみゃく）』という系図集には、道長の妻として紫式部の名が書かれていることが紹介されました。律令時代では考えられない権門の出の道長と、中・下級の家の出の紫式部の間に交流があったことを窺わせる出来事。請負システムの整備は身分上の格差解消の契機にもなったようです。（高橋邦晴）

代表世話人会議（2月1日）

●運営代表世話人会議が開催されました

2月1日、23後期運営代表世話人会議がオンライン併用で開催されました。代表世話人、役員・参与、事務局など40名の方がたが出席。太田理事長からは、日頃の講座運営のご尽力に、また今期は受講料の改訂に関して受講生への説明に傾注して頂いたことに感謝しているとの挨拶がありました。



運営代表世話人会議の様子

第I部のNPOからの報告では、①コロナ禍以降、受講生数が20%減少。変更収支見込は▲7百万円になり、財政改善のため24年度から受講料値上げをさせて頂いた。次期繰越金は定期預金の10百万円を確保できる見込み。経費は、人件費、講座活動費の占める割合が大きく、適正な講座・WS数、それに見合う人件費の検討が必要〔全体・総務〕。②講座回数の複数化（エクセレントⅢ、短期集中講座4講座で試行）、単回受講と25歳以下割引の実施、講座・WS別採算状況の世話人への通知、資料枚数削減のためファイル送付試行、会員制度の見直し検討、講座・WS開講時の世話人募集などに取組んだ〔事業推進〕。③募集案内のデザイン変更。新聞折り込み先の改善。来期よりチラシのサイズを縮小。地域イベント参加、X（旧ツイッター）・HPの内容検討〔広報・地域連携〕。かわら版発行は、23年後期より増刊。④資料代の受講料込みの実態は、総務部会で調査中。また、23年度の個人寄付金額減少、講座の資料コピー枚数削減、募集案内のデザイン変更について質疑応答がありました。

第II部はグループ討議で、①WSのある市民大学は少なく、アカデミーの特色。垣根が高いとの声もあるが、入門編があっても良い。WSの運営はそれぞれ異なり一括して議論するのは難しい。②世話人の確保は地道な声かけに尽きる。会員で世話人をローテーションにしては。③会員制度や修了制度の要不要、2年会員と聴講生の二つにする。受講回数によって割引制度にする。④単回受講は継続の要望が多数あり。⑤オンライン講座充実、オンデマンド講座導入の要望など、様々な意見が出されました。

●23年度受講生アンケートの結果（23年12月実施。回答者782名）

- ・**回答者特徴**として、年代は70代以上で9割を超え、川崎市内在住が7割（麻生区、中原区が多い）、市外3割。2年会員44.1%、聴講生41.4%、1年会員14.5%。受講年数は、10年以上が約3割でした。
- ・**新規受講生のみへの質問**では、①何でアカデミーを知ったかは、知人26.7%、新聞折込21.6%、募集案内19%、HP17.2%（22年度よりHPが増加）。②来期もアカデミーで受講するかは、受講する53%、未定44.4%。③講座・WS受講の感想は、満足している75.7%、普通と感じている22.5%。
- ・**アカデミーでの受講・制度**について ①講座回数（12回）は、適当82.5%、もう少し多くてよい7.7%、もう少し少なくてよい9.8%。②講座内容のレベルは、適当が90.4%。③開催してほしい受講形式（複数回答可）は、対面64.6%、オンライン併用31%、野外23.7%、オンデマンド10.1%。④受講料は、安い3.6%、適当72%、高い24.4%。（「高い」が22年度回答の3倍強に）、⑤半年間の生涯学習費用（アカデミー含む）は、3万円未満49.9%、5万円未満29.2%。⑥運営世話人制度を知っている人は85.7%。「条件があれば協力してもよい」との回答が40%ありました（条件の具体的記述はなし）。

（NPO事業推進部会）

認定NPO法人かわさき市民アカデミー

“総会”開催のお知らせ

報告



開催日時：5月21日（火）

14:00～生涯学習プラザ301

NPOの活動の充実と発展には、多くの皆さまのご協力とご理解が必要です。

是非、NPO正会員にご加入いただき、ご支援ご協力をお願い申し上げます。

問合せとNPO正会員申込先 ☎044-733-5590

訃報：村田先生ご逝去

村田文夫元副学長は
3月25日に亡くなりました



（享年81歳）。村田先生は、2013年4月から2018年3月まで副学長を務められ、川崎学のカリキュラム再編成などを担われました。川崎市教育委員会に勤務され、専門は考古学。川崎学双書シリーズの刊行にも尽力されました。

「これからも応援します」

『地域協働講座「発達障がいを理解する」
修了生交流会』 独り立ち*

* 地域貢献活動立ち上げ支援助成事業交付第1号

2021年度からスタートした助成事業はコロナ禍のため活動が難しい中、助成金（3万円/年・3年）で年間の会場予約が可能になり、発達障害に関わる保護者の交流の場、学びを深める場、そして、保護者の休息の場といういずれも大切なプログラムが実現。フェスタ'22では発達障害臨床の第一人者で全国にファンがいる北大名誉教授田中康雄先生の講演と橋口亜希子さんとの意見交換会がハイブリッドによって実現しました。このイベントが大好評だったため、2023年3月には、やはりハイブリッドで、収録対談上映と意見交換会を開催。南は沖縄から北は北海道、岩手と

いう広域の団体・個人が参加しました。今後も交流会の活動を応援します。



アカデミーに強い関心

ストックホルム大学准教授来訪



開学30周年記念シンポジウムに登壇いただいた澤野由紀子聖心女子大教授とラウインスキーストックホルム大学准教授が2月7日来訪。

北欧の生涯学習を研究対象とするラウインスキー先生の出身国ポーランドでは各大学に「第三世代大学」を併設。男性より5年早く定年になる女性でほぼ占められているなど、本やネットでも得られない情報を伺えました。（守田啓子）

ラウインスキー先生
と澤野教授

みどい学特別講座「身近なみどいの魅力発見」のご案内

今年は、川崎市市制100周年の記念事業として、全国都市緑化フェアが開催され、そのコアとして富士見公園・等々力緑地・生田緑地の3会場を中心として開催されます。

かわさき市民アカデミーとしても本記念行事への後援・支援を目的に、緑化フェア開催前に、市内での「みどり」を再発見する観察会を計画しました。

そこで、川崎市内の代表的な3つの緑地を、選び、みどり学のコーディネーターである石井誠治先生が、4/20（土）宿河原の緑化センター及び5/18（土）生田緑地を、そして、武部令先生が5/11（土）東高根森林公園の観察会を計画しました。何れも、午前と午後の部の2回に分けて行いますので、ご都合の良い時間帯での参加ができます。

チラシやホームページにて詳細を参照のうえ、ご参加並びにお知り合いの方々への紹介をお願いします。

Green For All
KAWASAKI
2024

受講生からの「ひと言ポロリ！」

“2023年度の修了生代表になっちゃいました”

辻 智子



この度は修了証をいただき嬉しく思っています。

私の夫は転勤族だったので、ずっと社宅暮らしでした。なので、定年後は息子が住む川崎市に近いほぼ川崎に住む事にしました。川崎のことは全く知らなかったため、退職した夫と二人でこの先どうやって暮らそうかと、かなり不安でした。しかし、とてもラッキーな事に川崎には市民アカデミーがあることが分かり、二人で参加して、定年後の生活はとても楽しくなりました。

最初は「まち歩き」に参加しましたが、すぐに「二人で世話人になってほしい」と言われ、軽率にもすぐ「うん」と言って世話人になりました。その時は世話人が何をするのかよく知りませんでしたが、やがて知り合いもたくさんできて楽しい毎日がスタートしました。

さて、アカデミーにはたくさんの種類の講座があり、講師の先生方も多くて、特に最近ではzoomで遠くにお住いの先生方の講義も聞くことができ、すごいなあ！と、驚いています。

また、受講生が理事や参与となってアカデミーの運営を管理し、各講座の代表世話人や世話人が講座の運営を手助けしています。私は夫の転勤で、いろんな場所で、講座や習い事をしてきましたが、このようなシステムのところは一つもありませんでした。かわさき市民アカデミーが、すべての受講生の支えによって、30年も維持できていることに、ほんとに感動しています。

私にとってアカデミーは、他に替えようのない大切な存在です。

第16回受講生のつどいを3月7日(木)に開催しました。146人の修了生!!



3月7日、生涯学習プラザ401教室で、「第16回受講生のつどい」が開催されました。1993年10月に第1期生が入学し2年後の1995年9月に第1回が、そして以降2007年3月まで毎年開催された「修了式」ですが、2008年2月からは修了生のお祝いに受講生同士の懇親という趣旨が加わり「受講生のつどい」と改称し、以後毎年実施されてきました(2019・2020年はコロナ禍により中止でした)。



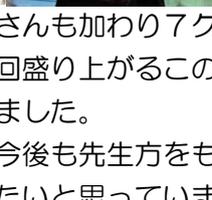
今年度は146名の方が修了されましたが、その内40名の方に一般受講生・講師の先生方が加わり70名が参加されました。第1部の修了式では修了生を代表して辻智子さんが石井副学長から修了証を受け取りました。副学長のご祝辞にもありましたが、「修了」は「終了」ではなく、ひとつの区切りですから、さらに次の「修了」を目指して受講して頂きたいと思えます。



そして第2部のアトラクションでは、吉本興業初の国際夫婦漫才コンビ「フランポネ」さん(ご主人は日本人、奥様はフランス語を母国語とするスイス人)による「日本のお笑いの世界のお笑い」と題した講演(?)を楽しみました。「漫才」を通して覚える日本語教育の現場や、「le Manzai」(漫才)をフランス語圏に普及させる活動など、数々の興味深いお話をお聴きしました。



第3部ではご出席の先生方から温かいスピーチを頂き、その後恒例の「ウルトラクイズ」に、先生方やフランポネさんも加わり7グループに分かれ全員で挑戦しました。毎回盛り上がるこのクイズですが今回も熱気溢れる時間となりました。



今後も先生方をも交えた受講生同士の懇親の場を設けていきたいと思っています。(実行委員長 重藤和義)



*** アカデミーホームページ(HP)のアドレス変更及びリニューアルのお知らせ ***

HPのアドレス(インターネット上の住所)を、現在のhttpからSSLによって通信を暗号化することでセキュリティが高まるhttpsへの移行を、5月末までに実施する計画です。事務局のメールアドレスも変更になります。また、HPのトップページのリニューアルも行います。最新のPR情報が入り替わりで表示されるカラーセル、項目の見出しにピクトグラムの併用などを織り込みます。

編集後記

桜の満開と共に2024年度前期講座が開講しました。今年の桜の開花は相当早いと予想されていましたが、実際は去年より相当遅い開花となり待ちぼうけを食ったような状況でした。毎年観るニヶ領用水沿いの桜も時によりただただ美しさ感叹したり、見事に咲いていても悲しかったりです。皆さんそれぞれに色々な思いをもって桜を眺めることと思います。かわさき市民アカデミーも色々な思いを持った人たちの集まりだと思えます。今学期もよろしくお願いします。(H.T)

認定NPO法人かわさき市民アカデミー

発行人 広報部会

編集人 かわら版編集委員会

川崎市中原区今井南町28-41

川崎市生涯学習プラザ3F

電話 044-733-5590 FAX 044-722-5761

問合せメールアドレス

info@npoacademy.jp/

<http://npoacademy.jp/>

HPは
こちら

